

経営責任はどこに行った？

ルネサス懇

人員削減の正当性は無し！

会社は昨年11月に、指名退職（希望退職ではなく、会社が一方的に退職者を指名する）によるリストラを社員に通知しました。しかも同様のリストラを定期的に実施する意志があることもほのめかしていましたので、ちょうど1年経った今、再びリストラの宣告があるのではないかと警戒していました。今年ルネサスがターゲットとしている市況の回復の遅れなどから、厳しい決算になるものの、売上高は、前年比で大きく飛躍した3年前の約1兆円を大きく上回り、設立以来3番目となる見込みです。市況の回復についても、2025年度においてようやく明るい兆しが見えてきていると聞きます。現時点の経営状況に鑑みれば、指名解雇に限りなく近いリストラをする正当性は無いと言えます。（大幅な黒字を出し、経営危機に無い企業が指名解雇することは、解雇四要件に反する違法行為とされています。）

アカウンタビリティの不在

ルネサスはこの1年で、アルティウムの買収に8900億円を計上し、株

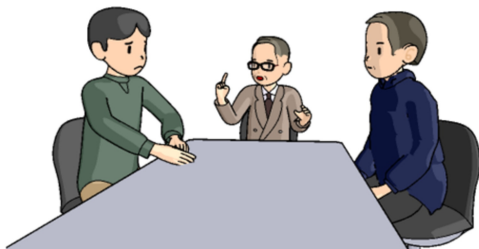
指名！



電機・情報ユニオン

困ったら、一人で入れる
電機・情報ユニオンに相談を

連絡先
TEL 03-6421-5323
FAX 03-6421-5324
メール: <denkiunion@gmail.com>



主に498億円を配当し、自社株買いにも多額のお金を使いました。一方、指名退職で削減できる人件費は相対的に少なく（仮に400人の退職で年30億円程度と推測）、また当年は割増退職金を積むため直近の費用削減にはなりません。まして、定期昇給延期の効果は、微々たるもの（数億円）ではないのでしょうか。

そもそも会社が社員を費用のかたまりとしか見ていないのではないかと、言える点が多い難しいものですが、最低でもM&Aその他で費やした莫大な費用と人員削減との関係、その間も柴田CEOが16億円もの報酬を得たこととの関係を、社員に解るように説明すべきです。アカウンタビリティ（説明責任）は、そして経営責任はどこに行ったのでしょうか。

2030年、それがどうした

ルネサスは、2030年までの中期目標として、売上高200億ドル、時価総額6倍などを掲げています。しかし、このままでは国内の大半の現ルネサス社員は、2030年までに会社を去ることになりそうです。しかもリストラがこの中期目標を錦の御旗にしているのだから、このような目標はむしろ無い方がよいということにさえなります。社員の多くは、心底からの協力ができないのではないのでしょうか。

<発行者>
ルネサス関連
労働者懇談会
（ルネサス懇）
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉
2-20-8 染野ビル
（電機労働者
懇談会気付）
（03）6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、

